



サメとサンゴ礁

所長 大森 信

サンゴ礁に付きもののサメが最近少なくなつたのに気がつきませんか？数年前まではアゴノハマでみられたネムリブカもいつの間にかいなくなりました。ダイビングをする人たちには安全で良いことです。いつだったか座間味村の村おこしにマグロの養殖をしたらどうかという話が村から出てきて、関係者にマグロをとりますかダイビングをとりますかと尋ねたことがあります。マグロを飼うと餌に生の魚を与えなければならないので、海は汚れるし、餌の肉や血を求めてサメがよってきます。ダイビングは危険になって観光の場としては適さなくなるでしょう。

日本では漁師を襲うとして嫌われていますが、サメはフカヒレや肝油や化粧品の原料になる重要な水産資源として漁獲され取引されています。こうして一年間に人間によって殺されるサメは世界中で7300万尾にも及ぶそうです。一般の魚に較べて(サメも魚ですが、一般の魚は硬骨魚類で、サメやエイは軟骨魚類です。両

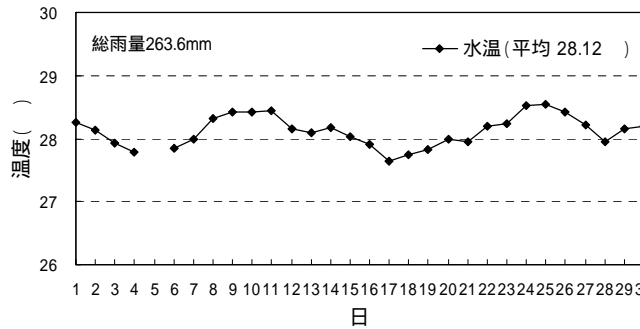
者は大昔に分かれて別々の方向に進化を遂げたものと考えられています。)サメは親になるまでに年数がかかるので、若いうちに殺されるものが多く、一回に生まれる子供の数はとても少なく、また妊娠期間が長いので(アブラツノザメで20ヶ月)一生の間に生まれる子供の数も少ないのです。ですからなかなか増えません。こうして人間に嫌われる一方でサメは漁獲されるためにどんどん数が減っているようです。人間を襲う可能性のあるサメはサメ総数の5%にも満たないのですが、サメがサンゴ礁から全部いなくなってしまうのでしょうか？

あらゆる海の生きものたちは食物連鎖でつながっています。微小の植物プランクトンを動物プランクトンが食べ、動物プランクトンを小魚が食べて、それを大きな肉食魚が食べるという仕組みで栄養が循環しています。食うものと食われるものの種や数のバランスが保たれていれば、海には多くの種類の生きものが暮らせます。日光と海水の栄養で育つ植物、それを食べる草食動物、更に肉食動物に続く関係がこわれると海には特定の種類の生きものだけが大量に発生して餌を食べつくします。オニヒトデがその例です。そして利用されないものが余って海を汚し、病気も増えて、生態系は活気を失います。

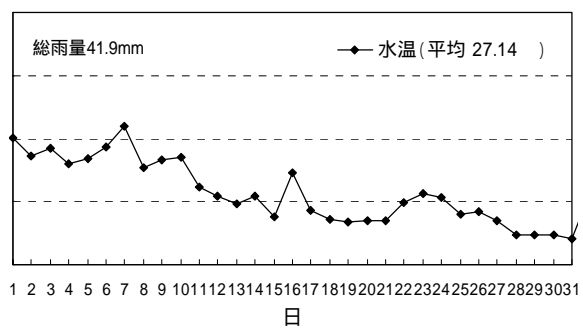
サメは肉食動物として栄養段階の頂点にいるわけですが、それがあまり減ると食物連鎖のバランスが失われるおそれがあります。先日、横浜で国際水産学会議

定点観測

2008年 9月



2008年 10月



が、世界中の国々から科学者達が参加しましたが、その時に発表された米国のペウ海洋研究所のピキッチ博士の警告はサンゴを研究している私達にも考えさせるものでした。サメが少なくなっているサンゴ礁ではサメの餌だったカマスが増え、カマスが増えるとその餌になるブダイが食われて数が減ります(図1)。ブダイにはいろいろな種類がありますが、一般にサンゴ礁の藻類を食べ、サンゴをかじってサンゴ礁を常に新しい状態に保つ大切な役割を果たしています。サンゴの幼生が着底する場所の掃除役なのです。サメがいなくなるとブダイが減ってサンゴ礁が元気を失うという話はなんか飛躍しすぎているよう

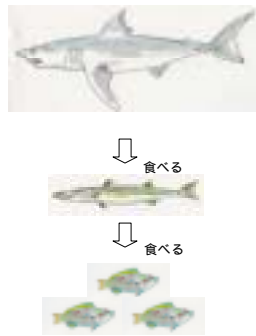


図1 画：大森

にも思われますが、海の生きものたちが食うものと食われるものの関係をとおして全てつながっているからこんなことが起きるのです。沖縄ではサメが減った上に人間がブダイを乱獲していますから、サンゴが減る一因はここにもありそうです。

サンゴ礁のない中緯度地方にもサメはいます。そこでサメが減ると、サメの餌だったエイが増え、エイが増えると海底の貝類が食べ尽されると博士は云っています。九州の有明海に大発生して漁業者を困らせているナルトビエイもまわりの海にサメが少なくなったことと関係があるのかも知れません。

海は陸ともつながっています。陸上で

私たちが何気なく行った行為が海の生きものたちに作用して食物連鎖のバランスを壊し、環境を変えてしまうことを、そしてやがてはその反作用が人間に戻ってくることを私たちは考えなければなりません。これだけ地球の人間の人口が増え、生活の方法が変わってきた現在です。陸上を汚せば海はますます汚れてくるでしょう。エコアイランドの名に相応しい慶良間列島の自然と観光を守るために、自分たちの住む島と海をもっときれいにするようにところがけたいものです。

阿嘉島の海より

10月27日、阿嘉小学校5、6年生による養殖サンゴの観察会がありました。観察したのは研究所が阿嘉漁港内で養殖しているサンゴで、産まれてから半年のものと1年半のものでした。半年のものはまだ数mmしかありませんでしたが、1年半たったものは4、5cmほどに成長していました。



養殖サンゴといえば、昨年の10月に生徒達が自分の育てたサンゴをマジャノハマに移植しました。12月には仲間由紀恵さんも取材に来ました。先日、移植してからちょうど1年たったので、サンゴの様子を見てきました。どのサンゴも元気に育っていて、枝も太くなりちょっとたくましくなっていました。

